

第3年次 第1回SPH運営指導委員会議事録

- 1 日 時 令和元年5月14日（火）14：00～16：00
- 2 場 所 県立高鍋農業高校 家庭経営室
- 3 参加者 **【運営指導委員】**
中瀬委員長、松田委員、横山委員、槐島委員、木村委員、池田委員、松木委員、
藤藪委員、山本委員、児玉委員
【高鍋農業高校】
萩原校長、岩切教頭、佐々木事務長、立野主幹教諭、横田教諭、村山教諭、
長澤教諭、黒木弘教諭、岩崎教諭、成合教諭、池田教諭、眞茅教諭、田住教諭、
椿本教諭
【県教育委員会】
小川主幹、谷口指導主事

4 協議内容（記録者：村山教諭）

（1）SPH事業報告

①第2年次事業報告（報告者：立野主幹教諭）

②第3年次事業計画（報告者：立野主幹教諭）

（2）委員からの質問・意見

①テーマ1 「高農ブランド」の農畜産物や加工品の品質向上と新商品の開発

（山本委員）畜産科学科でのGAPへの取組はどうなっているのか。

（横田教諭）現在、学科では、GAP取得チャレンジシステムに取り組むことで話をしている。

飼料の問題もあり、グローバルGAPへの取組は困難であるが、GAP取得チャレンジシステムへの取組が現実的などころである。取得は最終目標であり、現在は、GAPとは何かという知識を学習している。自分たちの農場において、GAPへの取組が出来ていることもたくさんあるため、ルールの「見える化」を図ることで実践を重ねていきたい。

（中瀬委員長）食品科学科では、昨年度からHACCPに取り組んでいるが、食品関連会社に就職した生徒が、就職先でHACCPに取り組むときに役立つ人材育成も視野に入れているのか。

（眞茅教諭）最終的な目標は、就職先で役立つ人材育成であるが、今年度は、製造実習においてHACCPの考えを取り入れた実習を実践していきたい。

（中瀬委員長）食品乾燥機を用いた商品開発を行っているが、食品乾燥機の利用や商品化ができていくのか。

（田住教諭）新商品「油味噌」においては、学校生産物のショウガやニンニクなどを、食品乾燥機を利用して乾燥粉末にして使用している。また、カレープロジェクトにおける香辛料の製造において食品乾燥機を利用していきたい。

②テーマ2 模擬会社「高農」の企画運営と農場会計を活用した経営実践

(梶島委員) 当初の計画では、株式会社の設立を予定していたが、実現できなかったのはなぜか。

(立野主幹教諭) 株式会社設立にあたっては、農業大学校が実施しているように、出資者が生産物を買取り、利益を付けて販売する方法も考えた。しかし、本校では、農場経営において特別会計を活用しているのもので、その特別会計を会社経営に見立て活用した方が、他の農業高校のモデルケースになるのではないかと判断した。

(松木委員) 模擬株式会社については、税務署に相談をしたところ、模擬株式会社であっても課税の対象となるとのことであった。

(松田委員) 模擬会社では、実施に商品をデザインし、PR、販売するテクニックを学習することも大切だと思うが、商品を売る人の気持ちをどのように育てるかも大切だと思っている。生徒たちが心で商品を売っていく、その心や気持ちを質の向上を図るためにどのような指導をされているのか。

(田住教諭) フードビジネス科では、販売所を活用し、学習を行っている。販売マニュアルを活用して販売実習を行っているが、お客様の心をつかむために、お客様の意見やクレームをフードバックするようにしている。先日の販売実習において、お客様からご意見をいただく機会があったが、生徒たちに伝え、改善方法について話し合った。

(立野主幹教諭) 座学では、ストーリーブランディング、ただ単純にものを作って売るのはなく、商品の物語を売る、商品のバックグラウンド、商品にどのような思いがあるのかについても学習している。

(池田委員) 農業者の考え方として、作業している時間を経費として考えないから製造原価がしっかりと出ない。販売経費がいくらか見ない。極端に言えば、製造すればするほど赤字という商品もある。そのような現状を考えると、販売するときには、売上がいくらか予測することや、製造原価や販売経費がいくらかかるか考える必要がある。決算することが目的ではなく、商品にいくらの価値をつけて、いくらで売れるのかを学ぶことが大切である。また、商品製造に使用する機器や、商品の構想を練る時間も経費、そのようなものも綿密に計算し、商品の価値をつけるべきである。その上で、利益が出るのか検証する必要がある。

③テーマ3 関連上級学校や地域との連携や寮教育をとおしたキャリア教育の充実

(山本委員) キャリア教育の視点での寮教育とはどのようなものか。

(椿本教諭) 卒業生との交歓会は伝統行事として実施しており、外部講師による講演会などを10年ほど前から実施している。生徒の人間的な成長を3年間のスパンで見ている。2年目以降に目に見えて人間的な成長が見られる。

(山本委員) 学校教育と寮教育とはどのように違うのか。

(椿本教諭) 例えば、学校で行う進路指導は、進路指導部を中心に学校全体で行われているが、寮では学校で行われている進路指導を下支えするものである。

④評価指標について

(中瀬委員長) 高鍋農業高校で作成している評価指標は、他校のものを参考にしているのか。

(立野主幹教諭) 他県でも研究指定を受けている学校があり、それぞれの学校の取組において、目指す生徒像が定められており、その取組において、どのようにして資質能力を高めているのか、どのようにして評価しているのか参考した。

(中瀬委員長) ポートフォリオはどのようにして活用していくのか。

(立野主幹教諭) 生徒たちが学びを振り返ったときに、蓄積した学びを見える化するために、資料をファイリングしていく。ポートフォリオの導入については、文科省からも指摘を受け、他校の取組を参考にするようにご指導いただいた。キャリア教育や専門教育において、3年間の学びをファイリングしていきたい。

(3) 委員からの指導・助言

(松木委員) 会社経営の基礎学習の項目中に「経営理念」とあるが、会社経営においては、何を指すかが重要である。会社経営においては、意外とどんぶり勘定が多い。そのようにならないためには、どのようにすればよいのか、また、税金や労働保険についても、今のうちに話を聞く機会があれば、将来に役立つのではないかと。講師の派遣については、相談をしてほしい。

(藤藪委員) いろいろ話を聞く中で、全体を通して感じたことであるが、先生方の目標設定は分かったが、生徒自身が目標設定をする場面があるのかと感じた。今年度で研究指定が3年目になるが、1、2年生が3年生の取組や姿を目標として、どこに目標を設定するのかの意識付が大切であると感じた。また、商品開発については、カレープロジェクトを今年度中に形にするためには、日程がタイトになってくる。何かあれば協力をしたい。

(横山委員) 会社経営については、農地の取得等についても相談が多い。農地の取得にかかる法律や補助事業等については、会社経営に関する基礎学習等でも触れてほしい。これから農業をする方には、池田委員からも助言があったが、経営感覚を磨いてほしい。

(松田委員) S A Pの会員が以前は6,000名を超えていたが、現在は200名を切っている。会員が勉強会をするときに、花や野菜、畜産などの品目では集まるが、制限をなくして集まることが難しい。品目にしばられた考えが広まっている。それは普及員も同様である。品目にしばられた考えの前に、地域があると話している。寮教育の中で地方創生について学習しているが、非常に素晴らしいと思う。高農のよさは、県内各地から集まっている。ふるさとを離れているからこそ、我がふるさとを見直すことが出来る。他の高校にはない取組である。地域という概念について横断的に考える力を養い、農業や地域のリーダーになってほしい。

(池田委員) 将来、高校生が経営の柱となって働くときには、T P PやF T Aが発動されて、よりグローバルな考え方が求められる。そのような状況を生徒たちが知っていることが大切である。これまでもオレンジや豚肉など影響を受けてきたが、その規模ではないものが入ってくるのが予想される。そのことを高校生のうちから自分の経営を試算してほしい。先生方にもその時代が来ることを生徒たちに教えてほしい。

(山本委員) 食生活が変わってきている。中食、外食が増えている。青果で売れば問題ないが、青果は加工業者に流れている。そうすると業務用の値段でしか動かなくなっていることが問題である。さらに、宮崎県の場合には、食品加工企業まで輸送費をかけて運ばなければならない。業務加工用は、海外の農産物がかなりのウエイトを占めている。今後、そのような中で農業を組み立てていかなければならない。時代が変わっていることを伝えなければいけない。

(木村委員) S P H事業は3年目を迎えるが、3年間で結果を出すことは困難である。生徒、職員ともに4年目、5年目から成果は出てくると思う。しかし、アンケート結果において、S P H事業に取り組む職員の意識の共有が図られていないことが問題である。事業終了後も、意識を共有することで学校が高められていくと思う。